

		診察室	月	火	水	木	金	土	日
午前診 9:00~12:00	内科	1	野村	安本	野村	安本	野村	安本	
	専門外来	2			総合診療 児玉和				
	泌尿器科	2	山本	山本			山本	山本	
	外科	3	児玉慎	猪井	菅	菅	児玉慎	猪井	
	整形外科	5	藤井	山中	藤井	西本	藤井	藤井	
内視鏡室			猪井 菅	児玉慎 菅	児玉慎	猪井 蓮尾	安本 猪井	児玉慎 菅	



※こだま病院では鼻から診る内視鏡検査を行っていますのでお気軽に医師にご相談ください。

児玉診療所 外来診察担当医一覧表 2013年12月

		診察室	月	火	水	木	金	土	日
午前診 9:00~12:00	内科	1	安本		福山	藤田		藤田	
	総合診療	1		児玉和			児玉和		
	整形外科	2	山中	藤井	山中		山中	山中	
	泌尿器科	2				山本			
眼科			加藤	加藤		加藤	加藤		
夜診 17:00~19:00	内科	1			福山	安本	古満		
	外科	2	児玉慎				児玉慎		
	整形外科	2			山中	18:00~ 上田			



※担当医師が変更・休診となる場合がありますので、ご了承ください。

こだま病院概要 どうぞお気軽に、ご来院・お問い合わせください。 WEBサイト: www.soreiyu.net

こだま病院 TEL 0797-87-2525

住所 〒665-0841 宝塚市御殿山1-3-2
FAX 0797-86-7725
病床数 110床(一般病床55床、療養病床55床)
診療日時 9:00~12:00(月~土曜日)

児玉診療所 TEL 0797-85-5577

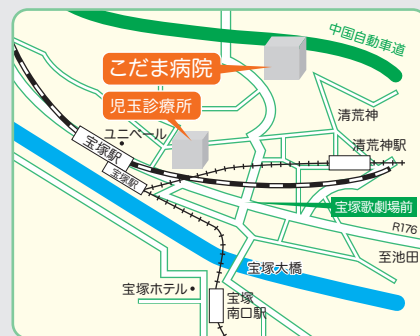
住所 〒665-0842 宝塚市川面3-24-9
FAX 0797-85-5511
病床数 19床
診療日時 9:00~12:00(月~土曜日)、
17:00~19:00(月・水・木・金曜日)

医療理念

- 発展する宝塚の地域医療を担います
- Human Medical Communication

運営方針

- 健全な経営の上に成り立つ健全な医療
- 患者様のための親切な言葉づかいとサービス
- 信頼される医療技術の提供、全人的医療をめざす



児玉診療所とこだま病院間で無料の送迎バスを運行しています。ご利用になられる際は受付にてお声掛けください。



医療法人 それいゆ会

こだま病院

SOLEIL GROUP KODAMA HOSPITAL

CONTENTS

病院報 冬号発刊にあたって 院長 児玉慎一郎…………… P1

当院の取り組みが、神戸新聞に掲載されました…………… P1

御殿山のくつろぎブレイクタイム 外科診療部長 菅 敬治…………… P2

腰痛 <腰痛の症状と対処> 整形診療部長 山中一浩…………… P4

リハビリテーション科のご紹介…………… P4

薬局のご紹介…………… P5

KODAMA TOPICS…………… P5

外来診察担当医一覧表…………… P6

こだま病院概要・連絡先…………… P6

年末年始のお知らせ

平成25年12月31日(火)から平成26年1月3日(金)まで休診とさせていただきます。

年内30日(月)、年明け4日(土)は平常通り診察を行います。

尚、急病・急患は365日・24時間受け付けしています。

Vol.6

冬号

2013年12月発行



病院報 冬号発刊にあたって

こだま病院は、理念である「地域に根ざした医療の提供」をモットーに、風通しの良いチーム医療を目指しています。信頼できるスタッフとともに全力をつくします。

院長 児玉 慎一郎

KODAMA NEWS

緑色の光線

従来の手術法は、尿道に管を入れ、そこから電気メスを入れて前立腺を削って尿道を広げるのが一般的だが、出血の多さや痛み、腫れが課題。管は3〜4日入れておく必要があり、入院も1週間程度がかつていた。血液が固まりにくくする薬を飲んでいられる心疾患、脳疾患の患者は止血しにくいため、手術が難しい場合があった。

このため、こだま病院は、米国製の治療機器で、管の先から出る緑色のレーザー光線

前立腺はぼつぼつと、尿道を取り囲む位置にある生殖器。加齢に伴い大きくなり、前立腺の真ん中を通る尿道が圧迫され、尿が出にくいなどの障害につながる。中年以上の男性がかかりやすい病気だ。発症率は50歳以上で5人に1人、80歳以上で5人に4人ともいわれる。薬で治療するが、尿が出ないなど重症になると、手術を避ける場合がある。

前立腺肥大に最新レーザー

男性の前立腺が大きくなり、排尿障害を伴う「前立腺肥大症」の治療で、最新型レーザー機器の導入が広がりにある。レーザーで患部を熱し、蒸発させる仕組みで、宝塚市御殿山、こだま病院(児玉慎一郎院長)では今年7月から導入。従来の方法より出血量を抑えられるなど、患者の体の負担が軽減されているという。

(金井恒幸)

10月12日(土)の朝刊のくらし欄で、前立腺肥大症に対する最新レーザー機器のグリーンライトレーザー導入の紹介とそのレーザーのメリットが新聞で取り上げられました。

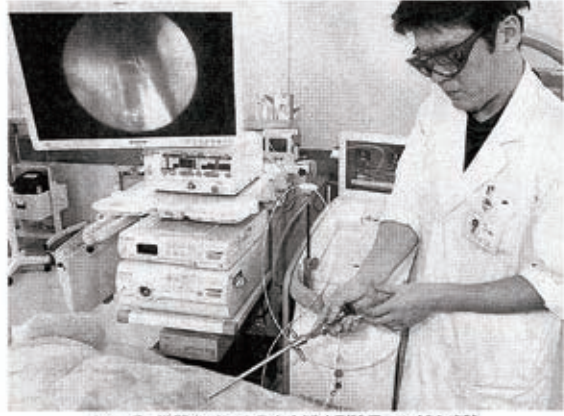
当院の取り組みが、神戸新聞に掲載されました

宝塚の病院など県内3施設導入

海外では米国を中心に50万例以上の実績があり、日本でも

出血量抑え患者負担軽減 入院日数も短縮、高齢でも手術可能

で組織を蒸発させる「グリーンライトレーザー」を導入。9月末までに15人を手術した。従来比べ、出血量は10分の1以下になり、患部の腫れや痛みも軽減されたという。管は手術の翌日には抜ける。



レーザー機器を手にする山本博丈副院長=こだま病院

るため、入院は3〜4日ほどと従来の半分程度に短縮した。

治療を受けたのは60〜80代で、最高齢は86歳。夜間頻尿が改善するなどの効果も出ている。ホームページを見て最新型レーザー治療を知り、大阪から手術を受けるにきたケースもあった。出血が少ないため、血液が固まりにくい薬を服用する患者にも安心して治療できる。

海外では米国を中心に50万例以上の実績があり、日本でも

もとの1年に公的医療保険が適用された。患者の負担は、1サーなら、体内管を入れ手術の技術がなければならぬ。手術後の患者さんの苦痛をなく減らすこととし、「出血が少なく安全な手術が可能」として、90代を言える可能性が高まるだろうと語る。

前立腺肥大症のレーザー治療では、肥太した前立腺の内側と外側の境目を治す切り離し手術がある。ただ、こちらも機器が高額なため導入施設は限られている。

手術が必要？



痛みの症状がない人は、基本的には手術を受けなくても大丈夫です。なぜなら、経過の中で痛みなどを発症する確率は2～4%と低率だからです。しかし、将来的に胆石発作を起こす可能性がある危険因子には、①胆石の数 ②胆石の大きさ ③年齢などがあります。

胆石があると分かっている場合には、症状の有無ではなく必ず定期検査を受けて、主治医と治療方針を相談することが大切です。

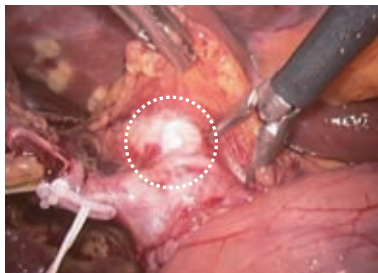
治療方法



胆嚢結石症の基本的治療は胆嚢摘出術です。当院でも、腹腔鏡下胆嚢摘出術を第一選択の術式としておこなっています。また、総胆管結石においても、腹腔鏡下でおこなわれる術式（腹腔鏡下総胆管結石手術：Laparoscopic common bile duct exploration:LCBDE）になってきました。

その他、総胆管結石症に対しては内視鏡的乳頭切開術（EST）、内視鏡的乳頭拡張術（EPBD）など内視鏡を使った治療があります。

総胆管結石症 治療方法（腹腔鏡下総胆管結石手術）



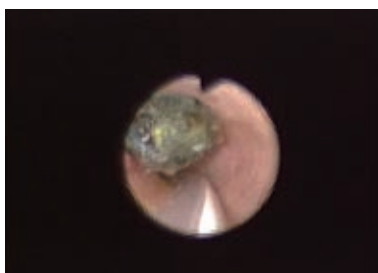
総胆管 この中に結石があります



総胆管を切開して結石を回収します



また、総胆管切開部から胆道内視鏡を挿入して結石を回収します



総胆管内を内視鏡で観るとこんな感じです



切開部を縫合処置します



終了(C-チューブを留置します)

当院では消化器科として内科医、外科医との連携をとって治療にあたります。患者様の全身状態、病態に応じて治療方針を決定し、より良い治療の提供を心掛けています。

腰痛 <腰痛の症状と対処>

整形診療部長
山中 一浩

腰痛といっても急性期腰痛(発症から4週間未満)、亜急性腰痛(発症から4週間以上3カ月未満)、慢性腰痛(発症からの期間が3カ月以上)と症状が続く期間により分けられます。

まず、急性期の腰痛に関しては下肢症状(下肢痛、しびれ、マヒ等)があれば、痛み止め・ブロック注射を行います。改善しなければ、腰椎間板ヘルニアは手術治療になることがあります。

下肢症状のない腰痛単独では整復術・痛み止め・安静・ブロック注射等に対応していきます。

やはり問題となるのが慢性腰痛であり、腰椎間板疾患により不安定性があったり、腰椎分離症といって腰椎の一部の骨が途切れているような明確な原因がある場合で、保存的治療が効かない場合に腰椎固定術を行いますが、それ以外の変形性が中心で骨粗しょう症による圧迫骨折(急性)がない場合、日本脊椎脊髄病学会では腰痛体操を推奨しています。

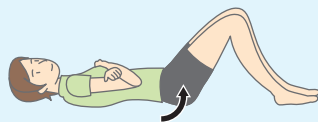
それに伴い、それいゆここだま病院・児玉診療所では、複数の理学療法士が在籍し、慢性腰痛に対しても積極的に下記の腰痛体操の指導を行っております。慢性腰痛にお困りの方は一度、病院・診療所でご相談ください。

<運動器慢性痛への対処>

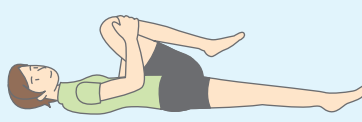
下部腰椎のストレスを減らすためには、腰椎の前湾と骨盤の前傾の増強を改善することが重要で、腹筋の強化、骨盤の後傾、股関節屈筋と腰背筋のストレッチングを指導します。



腹筋の強化運動



骨盤の後傾運動



股関節屈筋のストレッチング



腰背筋のストレッチング

リハビリテーション科のご紹介 ~明るく元気にサポートします~

主任 鵜崎 智史



リハビリテーション(リハビリ)とは、心身の機能が低下し、日常生活に支障を来した方々が、機能を回復させ、元の生活へ復帰することを指しています。私たちは、医師の指示に基づき、運動療法や物理療法などの手段を用いて、そのお手伝いをしています。そして、いつでも適切なリハビリが提供できるように、常日頃から知識や技術の向上を図っています。

また、より良いリハビリの提供には、他職種との連携が不可欠です。医師、看護師との連携は無論ですが、介護関連職種とも連携し、退院後も安心した生活が送れるように支援いたします。

当科ではリハビリが必要な方に対して、入院だけでなく、外来でもリハビリを提供しています。

さらに、法人内の「デイケアあけぼの」や「ひかり訪問看護ステーション」でも、個別のリハビリを提供しています。それら在宅でのリハビリには、とくに経験豊かな理学療法士が担当し、生活環境へのアドバイスも含めたリハビリが受けられます。

入院だけでなく、在宅生活までのリハビリをトータルでサポートできる体制作りをしています。

リハビリに関する事であれば、いつでもお気軽にご相談ください。

スタッフ

理学療法士6名の体制でサポートいたします

御殿山の くつろぎブレイクタイム

“こだまの医学”というタイトルでこだま病院の各診療科医師が、
今後、毎号、病気・治療方法等について連載していきます。

こだまの医学

たん のう 胆嚢結石症・総胆管結石症について

外科診療部長
菅 敬治



胆石って？

肝臓で作られた胆汁成分が何らかの原因で固まってできたものが結石です。
ですから、胆汁の排泄経路のどこにでも結石が形成されます。
その中で胆嚢内にできたものが胆嚢結石(胆石)です。
結石の成分は、コレステロールであったり、色素結石といわれる真っ黒な結石ができることがあります。

胆石の症状

胆石の症状には、腹痛、悪心、嘔吐があります。胆石と腹痛との頻度は約半数と言われています。
腹痛は胆石発作と呼ばれ、心窩部痛や右季肋部痛、また背部痛や右肩痛が認められることがあり、特に油分の多い食事のあとに起こることが分かっています。
痛み の程度はさまざま、激痛であったり、心窩部の重い感じだけで数時間で改善してしまう場合があります。その為、胃が悪いのかと思う人もいます。また、発熱や黄疸を伴う場合は、緊急治療を要する病態になっていることがあるので、さらに注意が必要です。
ただ、症状が軽いからといって胆石発作を繰り返しているのはあまり良くないのです。時として手術を行う際に、難渋症例となってしまうことがあります。それは周囲臓器との癒着であったり、組織の硬化、壁の肥厚をきたしたり、さらには胆嚢癌との関連として現時点では明らかなデータは得られていませんが、胆嚢粘膜への慢性的な炎症の刺激が悪性所見を生み出す原因の一つではないかとの報告もあります。

検査方法

胆石が確認できるのは、超音波検査、CT検査、MRI検査(MRCP)などがあります。
どの検査にも特徴があり、病態に応じて選択されます。

薬局のご紹介

～日々コツコツと!小さな事でも丁寧に～

薬局長 牧尾 知奈美



こだま病院薬局では、患者様に安心してお薬をお使いいただけるよう、様々な事に取り組んでいます。

服薬指導(ベットサイドでの説明など)、医薬品情報の提供、医薬品管理、処方箋調剤、注射薬調剤、他の医療機関との地域連携、新薬の勉強会などを行い、「患者様のQOLの向上」と「あたたかい医療の提供」を目指しています。

わからないことや不安なことがある患者様に対しては、いつでも気軽に薬局にお越しいただけるよう、薬剤師が誠意をもってご相談に応じるべく努めております。

また、今年度より薬学部6年制教育課程を修了した新人が入職し、現職の薬剤師とともに活躍しており、「地域医療に貢献できる薬剤師の育成」にも力を入れています。

スタッフ

薬剤師7名、薬局クラーク1名の体制でサポートいたします

KODAMA TOPICS

TOPICS 1

当院は身体障害者補助犬の受け入れを行っています

当院では、本年10月より、身体障害者補助犬の受け入れを行っています。看護部を中心として、職員が必要な知識を習得し、受入の準備を整えました。10月12日には実際に介助犬が必要な患者様の受け入れを行いました。

当院は今後も、患者様のニーズを捉え、病院としての活動の範囲を広げてまいります。

TOPICS 2

当院は臨床研修医の指導施設です

指導施設となり3年になります。

やる気があり、謙虚な若い医師を指導することを、病院の襟を正す機会とし、日々、切磋琢磨しております。

TOPICS 3

平成26年2月に電子カルテを導入いたします

当院では、来年2月からの電子カルテの導入に向かって現在、準備を進めています。電子カルテシステムを導入する事で、紙カルテや伝票が不要となり、受付から会計までの処理が早くなります。

また、診察面では患者様の診療情報をすぐ確認することができ、スムーズな診察が可能となります。

稼働当初は、皆様にご迷惑をおかけする部分があると思いますが、患者サービスの向上のため、職員一同全力で取り組んでまいりますので、御理解を賜りますようお願い申し上げます。